



見る・聴く・学ぶ 研修会に参加しました

「広報・公聴」の立場からの議会だよりを学ぶ

議会広報先進地視察研修

平成28年9月28日～29日

新潟県聖籠町議会・山形県庄内町議会

聖籠町議会だよりでは、新年度の新規重点事業を「主な質疑」やイメージ写真とセットにし、読みやすくする工夫がされていました。また「町の声」予算への思いを聞くなど住民目線が多彩です。

庄内町議会だよりでは、広報モニター制度を導入しています。広報モニターからのアドバイスは、「広報委員にとつて気づかない箇所を的確に指摘していただいている」とのことでした。

また、一般質問や常任委員会などの提言や、採択した請願や陳情など「どのような結果になったのか」の追跡レポートなどもありました。

両議会だよりとも町村議会広報全国コンクールで入賞しており、広報にとどまらず住民の意見や参加を求める「広報・公聴」の立場からの編集が大変参考になりました。

今回の視察で学んだことを、今後の議会だよりの編集に生かしていきます。



住民目線の広報づくりを学ぶ

読まれ、伝わる議会だよりへ

全国町村議会広報研修会

平成28年10月25日

東京都 シェーンバッハ・サポー

伝わる文章の書き方や広報コンクール優秀賞受賞紙の企画編集等、3人の講師の方々から学びました。

町民に伝わる議会だよりを作成するために、委員一同真剣に取り組みました。

群馬県町村議会広報研修会

平成28年11月22日

群馬県市町村会館

編集・出版アドバイザーの芳野政明先生による研修で、午前は広報紙の基本と編集技術、午後は県内3町村の議会広報紙クリニックが行われました。具体的な事例を用いての説明で、大変参考になりました。

これらの研修で学んだ事柄は、早速今号においても随所に反映しております。これから、次号が楽しみで読みたくなる議会だよりを目指して調査研究を続けてまいります。



具体的な事例を学ぶ



より伝わる広報に

あの災害を忘れないために

群馬県町村議会議員研修会

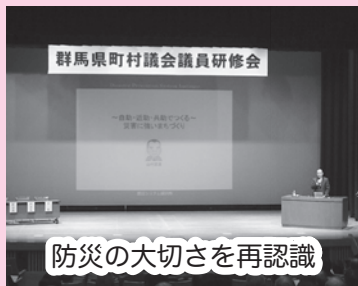
平成28年10月28日

吉岡町文化センター

防災システム研究所所長の山村武彦氏による『自助・近助・共助でつくる災害に強いまちづくり』と外交ジャーナリスト・作家の手嶋龍一氏による『動乱の21世紀を読み解く』中国の台頭と日米同盟』と題した2講演を聞きました。

山村氏は「災害はいつ発生してもおかしくないのに、群馬県民は防災意識が非常に低い。日頃からの準備・訓練が必要で、災害が発生した場合は近くの人と助け合う体制をつくるのが大切」と話され、災害時に何ができるか改めて考えさせられる講演でした。

手嶋氏からはアメリカ大統領選挙の行方についての話や、北朝鮮の危険な行動、そして台頭する中国と周辺国との関係等の話を聞き、これから日本の進むべき道を真剣に考える必要性を強く感じた研修でした。



防災の大切さを再認識